

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社 第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第4学年 題材1「音楽で心の輪を広げよう」

♪思いをこめて歌いましょう。

「花束をあなたに」(2時間)

●今 何をする？●

★聴いているだけで爽やかな気分になる曲です。指導用CDをフルに活用して、心の中で歌ったりハミングしたりして曲に親しみます。また、伴奏にも着目するように促します。

☆電子黒板やプロジェクター、拡大楽譜を活用すると、各児童が考えた歌い方について学級全員で共有することができます。また、児童の思いや意図を書き込める付箋やワークシート、タブレットを活用すると、歌えるようになったときに活用できます。

1 聴いて 感じて

◎「どんな歌だろう？」

(1) 曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりに気付く。

- ・指導用CDの範唱(以下、範唱)を聴いたり歌詞を黙読したりして、気付いたり感じたりしたことを教科書等にメモし、教師がそれを代読したりプロジェクター等に写したりして共有する。
- ・楽譜を見ながら、範唱に合わせて心の中で歌ったりハミングしたりする。
- ・2段目1小節目の**b**(フラット)の記号と意味を知り、旋律の音の動きを手の動きで表したり指で音符をなぞったりしながら、範唱に合わせて心の中で歌う。

2 聴いて イメージして

◎「どんな感じに歌うといいかな？」

(1) 伴奏を聴き、心の中で歌いながら歌の旋律と伴奏と関わりを捉え、歌い方を考える。

- ・心の中で歌いながら指導用CDのカラピアノや教師のピアノ伴奏を聴き、前半と後半の伴奏の違いに気づき、どのような感じかについて付箋等にメモする。

例) 児童A:「前半の伴奏は、優しい感じだけど、歌の旋律は音が飛んでる？」

児童B:「後半は、リズムを刻んで、『とどけよう』という気持ちが高まっていく。」

- ・旋律と伴奏との関わりに気を付けながら範唱を聴き、自分の考えを整理し付箋に記入する。

例) 児童:「最後の『とどけよう』に向かって、3段目からリズムにのった伴奏に合わせて少しずつ盛り上げていきたい。後半の旋律は、音の動きが前半ほど大きくないから少しずつ盛り上げていきやすいと思います。」

(2) 考えた歌い方を伝え、拡大楽譜や教科書を見ながら、範唱や伴奏に合わせて心の中で歌う。

- ・児童の書いた付箋を拡大楽譜に貼ったり、内容ごとにまとめて模造紙に貼ったりして各自の思いや意図を共有する。

●評価●

知 曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりについて気付いている。

思・判・表 歌唱表現の知識を得たり生かしたりしながら、前半と後半の曲の特徴を捉えた表現を考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

態 曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりに興味・関心をもち、思いや意図をもって表現しようとする学習に進んで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

歌うことに夢中になるだけでなく、伴奏の役割を考えるよい機会です。伴奏によって音楽の雰囲気が変わることを感じ取っておくことは、今後の歌い方の工夫への一助となります。

第4学年 題材2「歌声のひびきを感じ取ろう」

♪歌詞の表す様子を思いうかべながら、のびやかな声で歌いましょう。「まきばの朝」(1時間)

●今 何をする? ●

★題材「歌声のひびきを感じ取ろう」は、現状で扱うことは難しい題材であるため、2学期以降に移行しています。「まきばの朝」は、教科書では本題材にて展開するように掲載されていますが、歌唱共通教材の重要な「日本の季節を感じる」役割を考慮し、ここに示しています。歌詞が見事な七五調でつくられ、牧場の早朝の様子が時間の経過とともに1～3番の歌詞に表されています。その美しい言葉のリズムと旋律やフレーズとの関わりに気付きながら、歌への思いを高めていきます。

☆「文字抜き歌詞カード」などを用意して、歌詞を書く活動が行えるようにします。また、日本の牧場の写真や動画を見て歌詞の表す情景を思い浮かべるとより歌詞の内容に親しみがもてます。教科書p.17の二次元コードを読み取ると、1人でも本教材を聴くことができます。

1 見て 聴いて

◎「どんな風景を歌っているのかな？」

(1) 歌詞の内容を理解して、牧場の早朝の情景や時間の移り変わり等を想像しながら心の中で歌う。

- ・指導用CDの範唱(以下、範唱)を聴き、情景を想像する。
- ・教科書を伏せ、範唱を何度も聴きながら、「文字抜き歌詞カード」(右図の例参照)に抜けている歌詞を書き、歌詞の表す情景、時間の経過、人々の動きなど、気付いたことを余白にメモしておく。

(2) 「文字抜き歌詞カード」や縦書きの歌詞を黙読して、十分に歌詞の表す情景等に浸る。

(3) 範唱に合わせて心の中で歌ったりハミングしたりし、歌詞や旋律を覚える。

例)

勇ましく鳴る鐘は、 どうどうとね！	まだ、太陽が昇ってない。きりが	<input type="checkbox"/>	ただ一面に	<input type="checkbox"/>
	かり、朝を告げる鐘だけが牧場の	<input type="checkbox"/>	ポプラなみ木の	<input type="checkbox"/>
	なを起すようにひびいている。牧	<input type="checkbox"/>	黒いそこから	<input type="checkbox"/>
	場	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	は、朝が早い！静かに歌いたいけど、	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	きり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	の	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	海	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	の	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ま	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 感じて イメージを膨らませて

◎「言葉と旋律がどう関わっているのかな？」

(1) フレーズに気を付けて、言葉と旋律との関わりに気付く。

- ・縦書きの歌詞や「文字抜き歌詞カード」を見ながら、楽譜の各段の歌詞が、七五調でできていることに気付くようにし、フレーズの4拍目から始まる音に気を付けて、歌っているように旋律の音の動きに合わせて手を動かす。

(2) 言葉と旋律やフレーズとの関わりを意識して、どのように歌うかを考えながら、1～3番の手の動かし方を変えて心の中で歌う。

- ・どのように歌うかを考えたら、「文字抜き歌詞カード」に記入しておく。

●評価

知 歌詞の内容と旋律、フレーズと曲想との関わりに気付いている。

態 歌詞の内容と旋律、フレーズとの関わりが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す情景を想像しながらフレーズを意識して表現する学習に進んで取り組もうとしている。

●これからどうする? ●

歌唱共通教材の中では、歌詞が分かりやすく日本の伝統的な七五調を味わうにはとてもよい教材です。国語の時間にも活用できると思います。また、フレーズと歌詞の七五調のまとまりを感じ取る活動は、フレーズの特徴を生かす豊かな歌唱表現につながります。

第4学年 題材3 「いろいろなリズムを感じ取ろう」

♪6拍子を感じながら歌いましょう。 「風のメロディー」(1時間)

●今 何をする？●

★指揮のまねをする，楽譜をなぞりながら心の中で歌うといった活動を行いながら，繰り返し範唱を聴くことで，8分の6拍子の特徴と曲想との関わりを感じ取るようにします。

☆教科書の楽譜を拡大し，旋律を色ペンでなぞったものを用意することで，旋律の動きやフレーズを感じ取りやすくします。また，2拍子の指揮の動きを表す図(6年生の教科書p.37)を提示し，指揮のような動きをする手掛かりとします。

1 体を動かして感じ取る

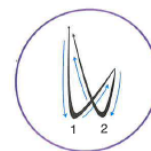
◎「8分の6拍子の特徴を感じ取ろう」

(1) 「風のメロディー」の曲想をつかむ。

- ・教科書の挿絵を見たり歌詞を読んだりして，どんな歌か想像する。
- ・指導用CDの範唱を聴き，思い浮かべた情景や曲の感じについて意見を出し合う。
- ・手を軽く動かす，体を左右に揺らすなど，好きな聴き方で範唱を聴き，心の中で歌う。

(2) 8分の6拍子の特徴を感じ取る。

- ・教科書p.19を見て，8分の6拍子の意味を知る。指導用CDのピアノ伴奏を聴き，1小節を8分音符6拍で刻んでいることを感じ取る。
- ・2拍子の指揮の図を見て，範唱に合わせて指揮のまねをする。



2 楽譜から気付く

◎「旋律のまとめり(フレーズ)や強弱の変化を感じ取ろう」

(1) 旋律の動きやフレーズの特徴を感じ取る。

- ・範唱に合わせて拡大楽譜(旋律を色ペンでなぞったもの)を指さしながら聴く。休符やブレスの部分で軽く息を吸う。

(2) 強弱の変化を感じ取る。

- ・教科書p.19で強弱記号の意味を知り，p.18の楽譜で確かめる。
- ・「風のメロディー」の曲の山(一番，盛り上がる場所)はどこか，意見を出し合う。
- ・3段目後半から4段目のはじめにかけての曲の山を感じ取り，範唱に合わせて手のひら全体で旋律線をなぞる動きをする。その際，友達と接触しないように気を付ける。

●評価

態 曲想と8分の6拍子の特徴との関わりについて興味・関心をもち，範唱に合わせて体を動かす学習に進んで取り組もうとしている。

知 曲想と8分の6拍子，旋律やフレーズ，強弱の変化との関わりについて気付いている。

●これからどうする？●

学級の朝の会や帰りの会の準備時間，給食の時間などのBGMにすることで，歌唱教材や柔らかな歌声に親しむようにします。聴きなじみのある曲は子供たちもすぐに歌えるようになるため，歌唱活動が可能になった時期に授業の始めに歌う曲としてもよいでしょう。

第4学年 題材3「いろいろなリズムを感じ取ろう」

♪手拍子のリズムを重ねてえんそうしましょう。

クラッピング ファンタジー 第7番「楽しいマーチ」(1.5時間)

●今 何をする？●

★手拍子のリズムの反復や呼びかけとこたえの面白さを感じ取りながら音を合わせて演奏する学習です。少人数グループによるパート練習を避け、全体で互いの音を聴いたり、代表児童が聴いたりして、どのように音を合わせて演奏するか、考えるようにします。

☆指導用CDの音源(カラピアノ+鍵ハ)に合わせて、手拍子だけの演奏にします。鍵盤ハーモニカの代わりに、キーボードやオルガンで旋律を演奏することもできます。

1 拍にのってえんそうする

◎「くり返しや呼びかけとこたえを感じて、手拍子のリズムをえんそうしよう」

(1) リズムの反復や呼びかけとこたえに気付く。

- ・教師が「楽しいマーチ」の□イや□ウに出てくるリズムパターンを打ち、それを全員でまねして手拍子で打つ。
- ・楽譜を見ながら指導用CDの範奏(手拍子・器楽)を聴き、□イは8拍のリズムの反復、□ウは4拍のリズムの呼びかけとこたえになっていることに気付く。
- ・範奏に合わせて手拍子1や手拍子2のリズムを演奏する。強弱記号に気を付ける。
- ・「手拍子1」「手拍子2」のグループに分かれ、リズムを合わせて演奏する。

2 互いに聴き合い、音を合わせる

◎「拍にのって、気持ちを合わせてえんそうしよう」

(1) 互いの音や伴奏を聴きながら、音を合わせて演奏する。

- ・「手拍子1」のグループが演奏し、「手拍子2」のグループは聴く。交替する。
- ・代表児童が2つのパートを合わせた演奏を聴き、「2つのパートのリズムの重なり、呼びかけとこたえが生きる演奏になっていたか」について意見を出す。それをもとに、よりよい演奏の仕方を全員で考える。
- ・他のパートや伴奏を聴き、リズムが重なるよさを感じ取りながら、音を合わせて演奏する。

●評価

態 拍にのり、友達と気持ちを合わせながらリズムを合わせて手拍子のリズムを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。

思・判・表 リズム、拍、呼びかけとこたえ、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように音を合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。

技 互いの手拍子のリズムやキーボードの旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

授業の導入で演奏すると、友達と音を合わせる気持ちで授業を始めることができます。リズムに合う体の動きを工夫し、体全体でリズムを表現する楽しさを味わうのもよいでしょう。

第4学年 題材3「いろいろなリズムを感じ取ろう」

♪拍にのって、歌と打楽器を合わせてえんそうしましょう。「いろんな木の実」(1.5時間)

●今 何をする?●

★ラテン打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴いたり、拍にのってリズムを演奏したりします。指導用CDの音源(歌唱のみ、リズム伴奏入り)を適宜、使い分けましょう。

☆ギロ、マラカス、クラベスを複数、用意し、できるだけ多くの児童が体験できるようにします。交替するときは直接、手渡しせず、楽器置き場の机の上に置き、除菌用の消毒液などで拭いてから、次の児童が楽器を取りに来るようにします。

1 打楽器の演奏に親しむ

◎「ラテン打楽器のリズムに親しもう」

- (1) 「いろんな木の実」の曲想を感じ取る
 - ・指導用CDの範唱(歌唱)を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。
 - ・リピート記号の意味を知り、楽譜を指さしながら範唱を聴いて心の中で歌う。
- (2) 打楽器の音色の特徴、演奏の仕方に気付き、リズムを演奏する。
 - ・指導用CDの範唱(歌唱・器楽)を聴き、打楽器の音色やリズムについて気付いたことを発言する。
 - ・音楽授業支援DVD「4.リズムばんそう」を視聴して、ギロ、マラカス、クラベスの演奏の仕方を知る。
 - ・範唱に合わせて交替で3種類の打楽器を演奏したり、演奏のまねをしたりする。

2 鑑賞から表現へ

◎「打楽器のリズムのおもしろさを感じ取りながらきいたり、演奏したりしよう」

- (1) 打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴く。
 - ・「ピーナッツ ベンダー」を聴き、打楽器のリズム伴奏を聴き取る。3種類の打楽器から自分が担当したい楽器を選び、演奏するまねをしながら聴く。
 - ・気付いたことや感じ取ったことを発表したり、ワークシートに記入したりする。
- (2) 打楽器の音色やリズムの面白さを感じ取り、拍にのって演奏する。
 - ・[1, 4, 5段目の旋律]は全員で、[2, 3段目の旋律]は一種類の楽器の担当が交替で演奏して、打楽器の音色を生かしながら拍にのって演奏しているか、互いに聴き合う。

●評価

態 ラテン打楽器のリズムの特徴に興味・関心を持ち、拍にのって音を合わせて表現する学習に進んで取り組もうとしている。

知 曲想やその変化と、打楽器の音色やリズム、音の重なりとの関わりに気付いている。

思・判・表 曲想と打楽器の音色やリズム、音の重なりとの関わりについて考え、リズムの特徴や面白さ、打楽器の音色を生かした表現を工夫し、どのように打楽器を演奏するかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする?●

歌唱が可能になったら愛唱歌として取り上げることが考えられます。鑑賞参考音源「マンゴNo.5」と関連付けて聴き、「ピーナッツ ベンダー」との共通点と違いを見付けてもよいでしょう。

第4学年 題材3「いろいろなリズムを感じ取ろう」

♪くり返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくりましょう。

「言葉でリズムアンサンブル」(2時間)

●今 何をする？●

★一つの言葉を素材にして、音楽の仕組みを生かしながらリズムアンサンブルをつくる学習です。

「大きな声を出さない」「友達と対面しない」「近づき過ぎない」などに気を付けて活動します。

☆指導書実践編 p.94 のワークシートを拡大したものを、適宜、配布します。密接しないためにグループに譜面台を用意し、個人またはパートごとにワークシートを見るようにします。

1 音楽づくりの方法を知る

◎「4文字の言葉でリズムアンサンブルをつくろう」

(1) 言葉のリズムを拡大したり縮小したりして、リズムをつくる。

- ・音楽授業支援DVD「5.言葉でリズムアンサンブル」(1分20秒まで)を視聴し、4文字の言葉のリズムを拡大したり縮小したりしてリズムをつくることを知る。
- ・教科書 p.24 の「おまつり」を例に㊶, ㊷, ㊸のリズムを唱える。
- ・4人グループで自分たちがつくる音楽の4文字の言葉を選び、3種類のリズムで唱えたり、リズムをつなげたりして試す。

(2) 2つのパートに分かれてリズムアンサンブルをつくる方法を知る。

- ・支援DVDの続き(1分20秒以降)を視聴し、2つのパートに分かれてリズムアンサンブルをつくる方法を知る。教科書 p.25 を見て、音楽の仕組みを生かしたつくり方を知る。
- ・グループで2つのパートに分かれ、リズムアンサンブルを4小節分つくる。

2 音楽の仕組みを生かしてつくる

◎「くり返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくろう」

(1) リズムのつなげ方や重ね方を工夫し、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる。

- ・前時につくったリズムアンサンブルをもとに、反復、呼びかけとこたえ、変化を使って、8小節のリズムアンサンブルをつくる。つくったリズムをワークシートに記入する。
- ・グループのワークシートを実物投影機などで拡大提示したのを見て、音楽の仕組みをどのように生かしているか、それぞれの工夫のよさに気付く。
- ・グループでつくったリズムアンサンブルを拍にのって演奏する。

●評価

態 言葉のリズムやその組合せに興味・関心をもち、友達とリズムアンサンブルをつくる学習に進んで取り組もうとしている。

思・判・表 言葉のリズム、反復、呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし、リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、どのようにまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。

知・技 言葉のリズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに気付き、反復、呼びかけとこたえ、変化を用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。

●これからどうする？●

声を出して学習することができるようになったら、反復や呼びかけとこたえの効果が表れるように強弱の変化をつけるなど、より表現を工夫し、グループ発表会を行うことが考えられます。

第4学年 題材4「ちいきにつたわる音楽に親しもう」

♪ちいきにつたわる民謡をきいたり歌ったりしましょう。 「こきりこ」(1.5時間)

●今 何をする？●

★鑑賞用CDや音楽授業支援DVD(以下、支援DVD)を十分に活用し、鑑賞したり民謡の歌い方の特徴を聴き取ったりします。また、特徴のある楽器にも着目します。

☆指導書研究編 p.63にあるワークシートを用意し、歌い方の特徴を書き留めたり、曲や楽器の音の響きなどについても、気付いたり感じたりして思ったことを記述したりします。

1 聴いて 感じて

◎「どんな旋律の民謡かな？」

(1) 鑑賞用CDの歌と楽器の演奏を聴き、旋律の特徴を感じ取る。

- ・民謡についての自分の経験を思い出しながら聴き、どんな感じの曲かメモをとる。
- ・書いたメモを机の上に置き、席を立って見合い、友達がどのように感じたかを知る。
※友達とぶつからないように距離を取って移動する。
- ・再度、歌と楽器の演奏を聴き、気付いたり感じたりしたことを付け加えて記録する。

(2) 鑑賞用CDの歌とこきりこの演奏や支援DVDの「『こきりこ』を歌おう」を視聴し、旋律の歌い方の特徴を感じ取る。

- ・教科書の文字の楽譜や画面を見ながら聴いて、声を揺らしたり伸ばしたりしていることに気づき、口ずさむ。
- ・手や指で文字の楽譜を指しながら、歌い方について気付いたり感じたりしたことを記録する。
- ・友達の気づきを共有しながら、再度支援DVDを視聴し、歌い方の特徴をまとめる。

2 見て まねして

◎「地域に根ざした楽器を知ろう！」

(1) 支援DVDの〈ばんそうで使われている楽器〉〈おどりで使われている楽器〉を視聴し、地域に根ざした特徴的な楽器について知る。

- ・ワークシートに楽器名や音の感じを擬音語で記入しながら視聴する。

(2) 支援DVDの「『こきりこ』をきこう」「『こきりこ』をおどろう」を視聴し、民謡のよさや面白さを味わって聴く。

- ・ワークシートに楽器の演奏の様子や踊り、音色の特徴など、気付いたことや感じたことについて、ワークシートにまとめる。
- ・支援DVDを視聴しながら、楽器の演奏や踊りをまねして、民謡の雰囲気味わう。

●評価

知 歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の民謡の特徴と曲想との関わりに気付いている。

思・判・表 音色や旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、日本の民謡を味わって聴いている。

態 音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見だしながら日本の民謡を聴く学習に進んで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

文字の楽譜は、民謡の歌の楽譜として活用されています。第5学年の民謡の聴き比べの際にも、中学校での民謡を歌う学習にもつながっていきます。また、五線以外の楽譜にも触れることになります。